

(第4号議案)

令和5年度事業計画(案)

＜令和5年10月1日～令和6年9月末＞

山梨経済同友会 代表幹事 入倉 要
代表幹事 長澤重俊

令和5年度(令和5年10月から翌年9月)の我が国経済を展望してみますと、新型コロナウイルスの影響が沈静化する中で感染拡大前の水準を超える経済発展に向けて邁進する年となることが見込まれます。

国際社会をみますと、ロシア・ウクライナ戦争は長期化の様相を帯びており、食糧やエネルギーを巡る混乱は改善の兆しがみえません。また、米国では景気が過熱気味となっている一方で、中国では不動産不況が深刻化するなど景気低迷が続く、経済を巡る環境は当面不透明さが拭えない状況にあります。加えて、ロシア、中国、北朝鮮などの国際社会との協調を顧みない行動、アフリカでの相次ぐクーデターなども大きな懸念となっており、温暖化の進行も含め、安全保障の問題からも目が離せない局面が続くと想定されます。

こうした中で、我が国は、新型コロナウイルスの5類への移行に伴い、経済活動の回復ペースが加速していくと思われまします。人手不足の深刻化、原材料価格の上昇、円安の定着等から物価は上昇もしくは高止まりとなりましようが、近年ない大幅な今春の賃金引き上げが寄与し、個人消費は緩やかながらも持ち直しが進むことが期待されます。また、半導体不足による製造業での足かせは徐々に解消が進み、中国からの団体観光客も回復基調を辿ると想定されます。一方、喫緊の対応が求められる人口減少対策・子育て支援の充実や防衛費増額に係る財源の確保、新型コロナウイルス関連支出の早期圧縮などの課題が積み重なる財政再建は待ったなしの状況にあります。福島原発の処理水を巡る意見対立、くすぶる政治不信、様々な業界で顕在化したコーポレート・ガバナンスの問題なども含め、こうした重苦しい雰囲気を払拭するためにも、積極的かつ透明性のある情報公開の下で、国民全体でのオープンで実のある真摯な議論が期待されます。

さて、こうした状況の下、山梨経済同友会の令和5年度の活動を考えてみます。

山梨県では、今年6月、「人口減少危機突破宣言」が出されました。これは、我が国において人口減少・少子高齢化が加速的に進行しており、合計特殊出生率が過去最低、出生数も初めて80万人を割り込むなど歯止めがかからない中で、山梨県においても同様の傾向にあり危機的な状況となっていることから、本年を人口減少危機突破元年として、出生率回復に向けた抜本的・集中的な取り組みのスタートの年とすることを宣言したものです。少子化の要因については、増加

する非正規雇用者の不安定な所得環境、子育てに係る多額の費用負担、女性の社会進出を支援する環境整備の遅れ、女性の就労や子育て・男性の育児参加への社会や家庭・企業の無理解、出産に対する当事者の意識の変化など様々ですが、行政が努力をすれば解決できるというものではありません。住民や大学・研究機関、そして我々事業者も「自分ごと」としてとらえ、すべての関係者がそれぞれの役割を着実に実践し、一丸となってこの危機的状況を突破していかなくてはなりません。

幸い山梨県は、子供一人ひとりに目が行き届くコンパクトな規模であり、近年交通網の充実が進む一方で世界文化遺産、世界農業遺産への指定も行われるなど利便性の向上や文化的環境の整備が進み、都会に隣接しつつ豊かな自然を享受できるなど、子育てには申し分ない環境にあります。

また、山梨県では、感染症に強い地域づくり、再生可能エネルギーの電力で水素を製造する先進的 P2G システムの認知向上・戦略的事業化、学びを通じた企業競争力・県民所得の向上など、さらに豊かな地域社会を実現する取り組みを進めています。民間事業でも、コストコの進出に象徴されるように、山梨県の持つ潜在力に対する注目は高まってきています。

山梨経済同友会は、地域社会との協調の下で、山梨県の有するポテンシャルの高さにさらに磨きをかける取り組みを実践し、山梨県に居住している人々(定住人口)のみならず、本県への訪問者(交流人口)、また、本県に思いを寄せる方々(関係人口)の期待に応えていかなければなりません。山梨県の将来をデザインしていく気概を持ち、責任を認識し、結果を残していくことが求められています。

令和5年度の事業は、4年度同様、「シン・ヤマナシ構築委員会」、「山梨ブラッシュアップ委員会」の2つの委員会を軸に進めていきます。

「シン・ヤマナシ構築委員会」では、提言部会に代えて新たに立ち上げる「シン・無尽部会」の活動としてシン・無尽（繋がり創造する場）の展開を中心に活動を行いますが、起(喜)業を志向する若者に対するメンター制度の導入も視野に入れて進めていきます。リニア・中部横断道部会においてはリニア・中部横断道を活用した山梨県経済の持続的発展を志向する活動の実施、勉強会部会においては従来の活動に加えて県庁各部局との意見交換の機会の模索を行っていきます。3部会とも多くの方に参加いただき、知恵も出していただいております。

また、「山梨ブラッシュアップ委員会」では、外部との連携や継続事業を実施して参ります。女性活躍パートナー部会において継続的な会議開催を通じて女性同士のネットワーク作りと山梨の未来への進化を目指した活動を行うほか、つばさを広げる部会において従来の活動に加えてシン・無尽部会と連携した学生相互の交流への進化を目指した活動、山梨ネットワーク部会においてHPのり

ニューアル効果の有効利用など、運営部会では会員交流・拡大事業をそれぞれ実施していくほか、来年10月頃に山梨にて開催される中央日本地区会議に対して準備組織を立ち上げ、万全の準備を図っていきます。

いずれにしても、ここ数年コロナにより委員会活動に参加機会がなかったので、多くのメンバーが参加できる仕組みを取り入れていきたいと思っております。

新年度もご参加ご協力の程よろしく申し上げます。

以上

令和5年度(5年10月～6年9月)

委員会(部会) 案

1. シン・ヤマナシ構築委員会 委員長:長澤重俊

※シン・ヤマナシ⇒「新」「真」「神」「伸」などいろいろなシンの意味を込めて
シン・ヤマナシを実現していくために求められる、経済同友会としての活動(提言、行動)を行う。
またその提言や行動については経済人の発想を大いに生かし、本当に実現していける内容に
こだわっていくこととする。

□	①シン無尽部会 (長澤、山寺、雨宮、奈良田、五十嵐、宮崎、小澤) 提言書「シン・ヤマナシ実現に向けて」の中でエンハンス機能と位置付けたつながりを創造する場であるシン・無尽と、起(喜)業したいと思った若者が一番適切な情報を得られる仕組みとしてのメンター制度を実際に展開していくことに軸足を移していく。
	②リニア・中部横断道部会 (五領田、志村(浩)、依田、大嶋、飯島、小澤) これまで通り、リニアと中部横断道を一つの部会として活動する。 山梨大学・武藤教授と協力しながら、リニア新幹線の2次交通、中部横断道の開通効果を高め、山梨県経済の持続的な発展を志向する活動を行う。 今後の国交省や山梨県の動きを捉え、関係部署との勉強会、意見交換会の機会を設ける。
	③勉強会部会 (泉谷) シン・無尽部会で提言実現に向けた具体的な動きにおいて、必要な知識や専門性を学ぶ場を設けていく。また、県庁各部局との意見交換の場を設ける。

2. 山梨ブラッシュアップ委員会 委員長:入倉 要

※「上を目指す」「磨きをかけてよくする」「さらによくする」
人づくりプログラム等を通じて、山梨県経済の活性化に繋がるような人材育成を行う。また、ICTを駆使し経済同友会の情報発信を行うと共に、会員交流及び会員拡大等の内部充実をはかります。(これまで活動してきた継続事業が中心となりますが、新しく関わって頂く方も大歓迎です。)

□	①女性活躍パートナー部会 (坂井、豊前、齊藤(貴)、宮崎、田中(弘)、峠谷、田中(慶)、金子) 山梨県や、シン・無尽部会、つばさを広げる部会とも連携しながら、継続的に会議を開催し、女性同士のネットワーク作りと、さらに多様性を広げて山梨の未来への進化を目指して活動する
	②つばさを広げる部会 (上原、降矢、伊藤) 県内の5大学と連携して、「つばさを広げる会」と「次世代育英講座」を企画運営するとともに若者の「繋がり創造していく場」「新しい価値観との遭遇」「変化を先取りする風土への変革」を実現するべく、シン無尽部会と連携し、学生さん相互の交流への進化を目指して活動する
	③山梨ネットワーク部会 (原田、奈良田、鈴木、峠谷、清水、宮崎) 経済同友会のホームページのリニューアルを行い、有効利用を図っていく。また、継続事業として5G・Ai・IoTの有効活用を生産性向上へ繋げる勉強会等を企画する。 SDGSの窓口活動をおこなう。
	④運営部会 (田淵、伴野) 会員交流事業及び会員拡大事業をおこなう。
	⑤中央日本地区会議実行委員会 (山寺、降矢) 令和6年10月(時期未定)に予定される会議の山梨開催に向けた組織を立ち上げ、企画準備を行う

(※)さらには、報道機関との意見交換会を企画していきたいと考えています